

## 世界のISO認証件数が発表

ISO(国際標準化機構)は、世界のISOマネジメントシステム規格(MSS)の認証件数について集計・調査した“ISO Survey 2020”を公表しました。これは、2020年末時点でのISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO27001(情報セキュリティ)、ISO22000(食品安全)、ISO45001(労働安全衛生)、ISO13485(医療機器)、ISO50001(エネルギー)、ISO22301(事業継続)、ISO20000-1(ITサービス)、ISO28000(サプライチェーンセキュリティ)、ISO37001(贈収賄防止)、ISO39001(道路交通安全)について集計されたもので、12規格の認証総数は、前年比18%増と大幅に増加。増加要因の一つとして、ISO45001の2018年発行に伴うOHSASからの移行期間により件数が大幅に伸びたことが挙げられています。また、中国の認証数の大幅増加により、ISO9001、ISO14001とも認証総件数が増加しています。

規格別の認証数では、ISO9001は916,842件(前年比4%増)で、国別では日本は4位の32,287件、ISO14001は348,473件(前年比12%増)で、日本は2位の17,804件でした。その他、ISO27001は5,645件で日本は2位、

ISO22000は1,503件で4位、ISO45001は1,400件でした。この調査の詳細については、ISOのホームページをご覧ください。(https://www.iso.org/the-iso-survey.html)

## ISO/IEC 27002改訂について

ISO/IEC 27001:2013の附属書Aの管理策は、8年前の改訂時のISO/IEC 27002から直接派生しています。情報セキュリティは日々変化しており、当時から大幅に変化した技術面を反映させる目的で、ISO/IEC 27002の更新が進められています。執筆時点現在DISの段階で、2021年末の発行見込みのため、本誌発行時には発行されている予定です。ISO/IEC 27002が改訂されると、ISO/IEC 27001の附属書Aに反映されて整合性が図られ、その後、ISO/IEC 27001は新しい管理策・番号として、2022年5月頃に発行されると言われていました。

改訂版のISO/IEC 27002では、管理策の数は、114種から93種に減少しますが、新しく追加される管理策は、A.5.7 脅威インテリジェンス、A.5.23 クラウドサービス、A.5.30 ICT継続性、A.7.4 物理的セキュリティ監視、A.8.9 構成管理、

A.8.10 情報削除、A.8.11 データマスキング、A.8.12 データ漏洩防止、A.8.16 監視サービス、A.8.22 Webフィルタリング、A.8.28 安全なコーディング、などを含み、急速に進化する新しいテクノロジーを反映したものとなります。詳細はISMS認証部(03-3669-7408)までお問い合わせください。

## JACB主催オンライン講演会

日本マネジメントシステム認証機関協議会(JACB)は、弊社を含む、IAF(国際認定機関フォーラム)加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関の協議会です。JACBでは、昨年、オンライン講演会を3回実施、前回は昨年12月、「QUALITY MANAGEMENTを考える」が行われました。基調講演の「トヨタの品質経営 自工程完結活動の推進」、事例発表の「すかいらーくにおける内部監査の活動」、「イオンリテールのEMSの取り組み」など、大変興味深い内容となっていました。

講演会は、JACB会員認証機関の認証組織も対象となっており、弊社認証のお客様はご参加可能です。詳細はJACBのホームページをご覧ください(http://www.jacb.jp/)。

## Q&A

お客様からいただきましたご質問についてご紹介いたします。

### Question

当社でSDGsを取り入れることになり、Intertek News 73、74号の特集記事「ISOを活用した四方よし経営」を参考に進めています。記事では、ISO14001をSDGsの4つの目標に関連付けていましたが、具体的な関連指針のようなものはありますか？

### Answer

ISOの公式サイト「UN Sustainable Development Goals – can ISO 14001 help? – Yes!」(英文)では、ISO14001と関連深いSDGs目標と、各ターゲット項目例として、以下のように記載(抜粋)されています。ISO14001の運用は、SDGsを取り入れた活動であることがわかりますので、ご参考にさせていただけるかと思えます。

- 1 – 貧困をなくそう 1.5-気候関連の極端な出来事や環境的な災害を減らす。
- 2 – 飢餓をゼロに 2.4-気候変動、極端な天候、干ばつ、洪水などへの適応力を強化する。
- 3 – すべての人に健康と福祉を 3.9-有害化学物質や空気、水および土壌汚染を削減する。
- 4 – 質の高い教育をみんなに 4.7-持続可能な開発とライフスタイル促進の知識を習得する。
- 6 – 安全な水とトイレを世界中に 6.3-投棄、放出、排水を半減させ、水質を改善する。

- 7 – エネルギーをみんなにそしてクリーンに 7.2-再生可能エネルギーシェアを増加させる。
- 8 – 働きがいも経済成長も 8.4-資源効率を改善し、経済成長を環境悪化から切り離す。
- 9 – 産業と技術革新の基盤をつくろう 9.4-クリーンで環境に優しい技術を採用する。
- 12 – つくる責任つかう責任 12.3-小売および消費者レベルで食品廃棄物を半分にする。
- 13 – 気候変動に具体的な対策を 13.1-自然災害に対する回復力と適応能力を強化する。
- 14 – 海の豊かさを守ろう 14.1-海洋の破片や栄養汚染など海洋汚染を予防、削減する。
- 15 – 陸の豊かさを守ろう 15.5-森林保全 自然生息地、生物多様性の喪失を止める。

(参照:https://committee.iso.org/files/live/sites/tc207sc1/files/Final%20UN%20SDG%20and%20ISO%2014001%20071216.pdf)